

意外と知られていない 杉戸町の誇れる特産品

ここは利根川を水系とする水路がいくつも造られ、豊かな農産物に恵まれた町です。そんな杉戸が誇る特産品の一部をご紹介します。

●米

最も多い品種はコシヒカリ。特別栽培米は甘みと粘り、ツヤと香りに白米のおいしさが際立つ自信作です。



●丸系八つ頭

(マルケイヤツガシラ)

大きな丸い形と里芋よりもホクホクとした食感が特徴です。11月～年末年始が旬。



●柿 (早生次郎)

杉戸町東部は柿の栽培が盛んで品種も豊富。どれも大ぶりで形がよく、たっぷりの甘みが特徴です。



●シクラメン

鮮やかな色と形が魅力。近年では黄色や紫、グラデーションなど珍しい品種にも注目が集まっています。



杉戸町の明日に彩りを加える、 このまちで活躍する仕事人たち

現在このまちで働く人々は、およそ1万5,000人います。商店を営む方、企業や公共団体にお勤めの方、自分の好きや得意なことを仕事にしている自由業の方など、職種や働き方は実にさまざま。



09

小さな町から大成した 杉戸町出身の有名人たち

小さな町ではあるけれど、人情と英知あふれる多彩な偉人たちが誕生しています。

うさはら しょうきち
上原 正吉氏 ▶

大正製薬名誉会長
「リポビタンD」の生みの親



きたむら かおる
◀ 北村 薫氏

ミステリーからエッセイまで
幅広い作品の直木賞作家



あぶかわ みほこ
虹川 美穂子氏 ▶

マルチに活躍。お笑い芸人
「北陽」のあぶちゃん



「ゆるキャラ」ブームが 去っても根強い人気の マスコットたち

杉戸町最初のゆるキャラは、平成12(2000)年に登場した「ぴかる」。まちの駅・道の駅「アグリパークゆめすぎと」のイメージキャラクターです。その後、町の公式マスコットとして杉の妖精「すぎぴょん」、日光街道杉戸宿が400周年を迎えたタイミングで、江戸時代の飛脚である「すぎたろう」が新たに仲間入り。イベント会場などでは、子どもたちの歓声が上がる人気者です。



07

どのくらいの人が このまちで暮らしているの？

現在、およそ4万人の人々が暮らしています。小さな町ではあるけれど、東と西では目に映る風景も異なり、生粋の杉戸町民から移住者、Uターン組までさまざま。都心へ出かけやすい利便性に加えて、田園の広がる自然豊かな環境と土地や家を購入しやすいなど、理想的な場所として若いファミリー層にも注目されています！



令和7(2025)年3月1日現在

05

町のシンボルマークは、 100周年を節目に二代目へ

杉戸町の形が翼を広げたワシの姿に見えることに由来して、ワシをモチーフにしたデザインが現在の町章です。目には埼玉県の県章である「勾玉(まがたま)」を、背には町の木である「杉」をあしらひ、杉戸町が未来に向かって羽ばたく様と、その躍動感を表現しています。町制施行100周年を迎えた平成2(1990)年から、現在の町章が使用されています。



町民の声から選ばれた町の木と花

全国の市区町村では、その場所に由来する木や花、動物などをシンボルとして制定しています。ここ杉戸町でも、昭和54(1979)年に町の木を「杉」、町の花を「菊」と決めました。これらのシンボルは、当時の町の人々から広く募集しました。杉や菊が選ばれた理由は興味深く、応募した人々がいかにこのまちを愛していたかが伝わってきます。



スギトの基本



杉戸町はまるで大空を羽ばたくワシのよう！

埼玉県東部に位置する杉戸町は、明治22(1889)年に誕生しました。当時200余りの宿村が31の町村に編成された結果、杉戸町はワシが翼を広げ、大空を羽ばたいているような特徴的な形になりました。よく見ると、くちばしの先まで確認できます。この偶然の産物は、まちの象徴として地元の人たちに親しまれています。



03

時間はかかっても…都心まで電車一本！

明治32(1899)年に東武鉄道が開通し、「杉戸駅(現 東武動物公園駅)」という名称で、蒸気機関車が走っていました。大正15(1926)年から電車が開通し、現在は東京メトロ日比谷線、半蔵門線への乗り入れが可能に。都心部まで電車一本で行けるようになりました。読書や見逃したドラマをまとめて視聴するなど、時間の使い方を考えるのも楽しみの一つ。銀座駅(直通約70分)／渋谷駅(直通約90分)